

共同礼拝

2024年8月4日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄 長谷川ゆり子(タ)

前 奏

招 詞 詩 編 90編1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エレミヤ書13章15～17節 (旧1201)

マタイによる福音書23章13～39節
(新45)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 73

説 教 「偽善者の救い」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 252

聖 餐 式

献 金

頌 栄 541

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

8月の祈り

戦争の狂気と悲惨を忘れることなく、主のみ心を求め、平和の実現をたゆむことなく祈り続けることができるように。

暴力、虐待、搾取、差別を乗り越えるための道を求め、実現への知恵がもたらされるように。

全ての者が平和こそ人の道であることに目を向けることができるように。

戦火や災害に弱る人々が力づけられるように。

今日の祈り

広島、長崎の原爆投下の日を覚え、平和を求め、武力によらない世界が実現するように。

指導者たちの思いが平和へと向けられるように。

時が良くても悪くても、神の御心を宣べ伝えることができるように。

体調を崩し、治療を受けている兄弟姉妹が支えられるように。

「偽善者の救い」 高橋和人

マタイによる福音書23章13～39節

主イエスは群衆と弟子たちに向けて話を続ける。律法学者とファリサイ派の人々について語る。そして彼らを「不幸だ」といわれ、8回繰り返される。それは、5章の「幸いである」の8回に重なる。

すると、主イエスのお働きは幸いであるに始まり、不幸だという言葉に締めくくられる。それは、聞くものの期待が裏切られる。幸いと同じく不幸を聞かねばならない。聞きやすいものを聞き、聞きたくないものを聞かないのは、聞くことにならない。

主はファリサイ派たちを偽善者と呼ぶ。偽善者は仮面を被って演じた役者を指していた。化粧という意味にも使われる。主イエスは、うわべとは違った

本心があることを指摘する。主イエスは彼らが天の国を閉ざし、改宗者をむしろ悪くし、誓いを自分の都合に合わせ、献げものは献げるが正義、慈悲、誠実をないがしろにしているという。さらに外側をきれいにさせるが内側は汚いものになっている。さらには、それが預言者の血の責任を負うという。

主イエスはただファリサイ派だけが偽善者だと非難しているわけではない。主は群衆と弟子たちにファリサイの偽善が入り込むことを教えられる。パウロはペトロとバルナバが見せかけの行い(偽善)に陥ったと指摘する(ガラテヤ2:13)。

人にはこの二面性が避けられない。裏表、本音と建て前、表向きと本心。うわべや見せかけとは違う自分の存在に気付かされる。人は矛盾を抱え、破れを抱えて生きている。

正しく生きようとしてもそうできない自分がある。パウロは「わたしは自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。」(ローマ7:15)と言いい、「それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。」(同7:20)と告白する。

問題は神の前でのこと。神の前でこそ人は人である。しかし、罪は神を遠ざけ、自分を分裂させる。隠させる。主イエスはこの惨めさ(ローマ7:24)を救われる。主は罪を赦し神のみ前に赦されたものとして取り戻される。赦された恵みに支えられて、自分の罪を知り、主の前に立つことができる。そのときには仮面もうわべを飾ることも必要なく、ひとりの赦された罪人であることができる。